

〈特集：研究者識別子 ORCID〉

## 研究者登録システム ORCID

時 実 象 一\*

〔抄録〕 研究者登録システム ORCID について解説した。ORCID は日本語もサポートし、研究者は自分のプロフィールや発表論文を登録できる。論文投稿の際の著者確認、大学の研究者名簿との連携、研究助成への適用などがはじまっている。

〔キーワード〕 学術研究, 研究発表, 論文, 著者同定, 登録システム, ORCID

### 1. はじめに

ORCID<sup>1)</sup> は、オーキッドと発音する。蘭の花のオーキッドと同じ発音である。まず、ORCID が出来た背景について説明したい。

同姓同名の問題は古くて新しい。ネットに「同姓同名辞典」というサイトがある。どのように調べたかは不明で信頼性は保証しないが、トップ5位は「田中 実」「鈴木 茂」「佐藤 清」「高橋 清」となっている。欧米人でも同じ問題が発生する。スティーブ・マックイーン (Steve McQueen) は日本人には「荒野の七人」や「ブリット」でよく知られた俳優である。一方、2014 年アカデミー作品賞となった「それでも夜は明ける (原題: 12 Years a Slave)」(誘拐されて奴隷となった黒人を描いた映画) の黒人監督も、同姓同名の Steve McQueen である。著者名登録のサイト ISNI (International Standard Name Identifier)<sup>2)</sup> はこの問題を解決するために設立され、ISO27729 となっている。ISNI のホームページには実例として、音楽家、声楽家、作家の 3 人の Michele Smith が掲載されているが、2 人は女性、1 人はなんと男性である。

学術文献では、非英米人の人名をローマ字表記するが、そうすると同姓同名はますます増える。これはアジアの研究者にとっては深刻な問題である。特に日中韓では、文字が異なっても発音が同じ姓名が多い。ORCID の発表資料<sup>3)</sup> には Physical Review Letter の論説からの引用として表 1 のような例が載っている。

さらに PubMed のように名をイニシャルにすると、日本人の同姓同名は膨大な数になる。非英米の欧州人も類似の問題がある。前記資料には表 2 のような例が載っている。

一方で、結婚して姓が変わることも、研究者にとって大問題である。同一人物であるにもかかわらず、これまでの研究成果が引き継がれず、引用も正しく数えてもらえない恐れがある。

### 2. ORCID とは

異なる研究者名が正しく区別され、同一人物が正しく同定されなければ、引用文献も正確に数えてもらえないし、自分の研究実績が正しく評価されない。このような問題を解決するために ORCID<sup>3)</sup> が誕生した。

ORCID プロジェクトは、2009 年 11 月に開始された<sup>4)</sup>。まず、それまでに実施されていた他の研究者識別子プロジェクトを研究し、自動付与方式でなく登録方式を採用することとし、そのモデルとしてトムソン・ロイター社の ResearcherID

\* Souichi TOKIZANE  
愛知大学文学部図書館情報学専攻  
〒441-8522 豊橋市町畑町 1-1  
E-mail: tokizane@aichi-u.ac.jp

表1 Wei Wang と欧文表記される中国名<sup>3)</sup>

王伟	王薇	王维	王蔚	汪卫	汪玮	汪威	汪巍
----	----	----	----	----	----	----	----

表2 Jens Åge Smærup Sørensen の様々な表記<sup>3)</sup>

J. Å. S. Sørensen	Jens Aa. S. Sorensen	Jens Åge S. Sørensen	J. Aage Smarup Sorensen
J. Aa. S. Sørensen	Jens Å. S. Soerensen	Jens Aage S. Sørensen	J. Åge Smaerup Soerensen
J. Å. S. Sorensen	Jens Aa. S. Soerensen	Jens Åge S. Sorensen	J. Aage Smaerup Soerensen
J. Aa. S. Sorensen	J. Åge S. Sørensen	Jens Aage S. Sorensen	Jens Åge Smærup Sørensen
J. Å. S. Soerensen	J. Aage S. Sørensen	Jens Åge S. Soerensen	Jens Aage Smaerup Sørensen
J. Aa. S. Soerensen	J. Åge S. Sorensen	Jens Aage S. Soerensen	Jens Åge Smarup Sorensen
Jens Å. S. Sørensen	J. Aage S. Sorensen	J. Åge Smærup Sørensen	Jens Aage Smarup Sorensen
Jens Aa. S. Sørensen	J. Åge S. Soerensen	J. Aage Smaerup Sørensen	Jens Åge Smærup Soerensen
Jens Å. S. Sorensen	J. Aage S. Soerensen	J. Åge Smarup Sorensen	Jens Aage Smaerup Soerensen

を採用した。同社が、使用しているモジュールを無償で提供してくれることとなったので、これを利用してプロトタイプの開発をおこなった。CrossRefはこの開発を全面的に支援し、同社のGeoff Bilderがプロジェクトに参加している。なおORCIDは、もともとOpen Research and Contributor IDの略であるが、最近ではORCIDが正式名として使われている。

組織としてのORCID（非営利機関）は2010年9月7日に結成された。中心となったのは、当時Nature Publishing GroupにいたHoward Ratnerである。CrossRefにならって会員組織とした。2013年末における会員（members and subscribers）数と分布は、図1、2のとおりである<sup>6)</sup>。わが国からは国立情報学研究所（大学・研究機関）、科学技術振興機構（研究助成機関）、アトラス（出版）が会員となっている。

また、ORCIDの理事は表3のとおりである<sup>7)</sup>。わが国からは国立情報学研究所の武田秀明教授が入っている。また、アウトリーチ運営グループ（Outreach Steering Group）には、Nature Asiaの宮入暢子氏がいる。

ORCIDの事業を宣伝するためにAmbassadorというボランティアが世界に60名強存在する<sup>8)</sup>。彼らは、ホームページの現地語化をおこなった

会員の機関種別分布

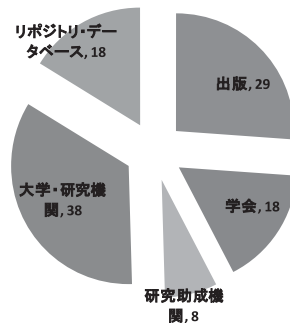


図1 ORCID 会員の機関種別分布<sup>6)</sup>

会員の地域別分布

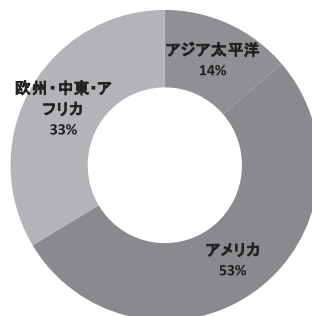
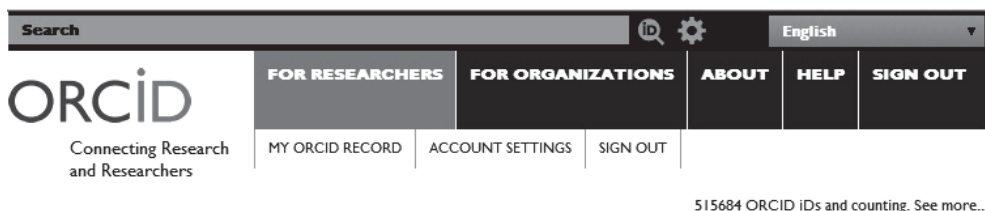


図2 ORCID 会員の地域別分布<sup>6)</sup>

表3 ORCID の理事<sup>7)</sup>

Liz Allen	Wellcome Trust
Micah Altman	Massachusetts Institute of Technology
Amy Brand	Harvard University
Craig Van Dyck	Wiley-Blackwell
Laurel L. Haak	Executive Director (事務局長)
Thomas Hickey	Online Computer Library Center
Veronique Kiermer	Nature Publishing Group
Dave Kochalko	Thomson Reuters (会計)
Salvatore Mele	CERN
Ed Pentz	CrossRef (議長)
Howard Ratner	ORCID 創設者 (元 Nature Publishing Group)
Bernie Rous	Association for Computing Machinery
Chris Shillum	Elsevier
Hideaki Takeda	National Institute of Informatics
Todd Vision	
Simeon Warner	Cornell University



## Register for an ORCID iD

ORCID provides a persistent digital identifier that distinguishes you from every other researcher and, through integration in key research workflows such as manuscript and grant submission, supports automated linkages between you and your professional activities ensuring that your work is recognized.

First name

\* ?

Last name

Email

\*

図3 ORCID の登録画面

り、パンフレットの翻訳の協力をおこなっている。日本の Ambassador は、現在のところ坂東慶太氏と筆者の2名である。

### 3. ORCID 番号の取得とプロフィールの編集

ORCID の番号はだれでも取得できる。ORCID のトップページから「Register for an ORCID ID」をクリックすると、図3のような画面が表

## Soichi Tokizane

 <http://orcid.org/0000-0003-1234-1930>

### Also known as:

時実 象一

### Other IDs:

Scopus Author ID: 8144570900

### Personal Information

#### Biography

PhD at Osaka University  
 Professor, Aichi University  
 ORCID Works Metadata Working Group  
 ORCID Ambassador  
 JATS (Journal Article Tag Suite) Standing Committee

図4 ORCIDの登録情報例

示され、この枠に入力すると新規登録ができる(この画面は現在英語であるが、日本語画面を開発予定)。

登録後に日本語の名前や所属、業績(文献)などの追加・編集ができる。ちなみに筆者の登録ページは図4のようになっている。文献は図5のように、日本語でも入力・表示できる。下のほうにスクロールすると原文へのリンクも表示される(図6)。Import Worksを使うと、他のデータベース、たとえばScopusやCrossRefの情報をインポートすることも可能である。

登録者数であるが、ORCIDのツイッターでは、昨年(2013年)11月25日に40万人を超したとの記事があった<sup>9)</sup>。まもなく50万人に達すると思



図5 ORCIDの業績(Works)情報例



図6 ORCIDの業績(Works)のリンク例

われる。

#### 4. ORCID の活用

ORCID は研究者、大学や研究機関、研究助成機関、データベースなどで活用される。ORCID の資料によれば、その活用事例（ユース・ケース）は次のようになる。

##### 4.1. 論文投稿の際の利用

論文投稿の際、著者を正確に同定し、同姓同名と区別できると同時に、編集サイドでは、その著者のプロフィールを確認できるし、共著者のチェックにも有効である。すでに Editorial Manager は ORCID 番号の検索・入力と、プロフィールのルックアップ機能が実装されている<sup>10)</sup>。

##### 4.2. 電子ジャーナルでの表示

すでに Nature の各雑誌では、著者名をクリックすると ORCID 番号が表示されるようになっていいる。そこで ORCID 番号をクリックすると、その著者のプロフィールがわかる（図 7）。

##### 4.3. 大学研究者名簿との統合

ハーバード大学では、ORCID のデータを大学の研究者 ID (HUID) と結合している<sup>11)</sup>。これに

より、研究者は複数のプロフィール・データベースに入力する必要がなく、また、研究者評価が容易になる。

##### 4.4. 研究助成への適用

米国国立衛生研究所 (NIH) では、連邦政府助成機関共通の研究者データベース SciENcv に ORCID 番号を含めることができるようになった<sup>12)</sup>。

##### 4.5. その他の研究者識別子との結合

トムソン・ロイター社の ResearcherID は ORCID とリンクされており、ResearcherID 画面から ORCID の入力ができる<sup>13)</sup>。

#### 5. 今後の開発予定

今後次のような開発が予定されている<sup>14)</sup>。

- (1) 研究助成情報の入力
- (2) 所属機関などによる代理登録
- (3) 所属機関などによる登録情報の編集
- (4) ウェブページの多言語化
- (5) 登録研究者へのメッセージ機能

また、国単位の会員制度の新設や、前述の、非研究者の識別子システム ISNI との乗り入れも検

The screenshot shows the Nature Immunology journal website. The article title is "The signaling T cell development in inflammation". The author list includes Chen Dong, Xuexian O Yang, Huiyuan Romica Kerketta, Young, Stephanie S Watowich & Chen Dong. The ORCID ID for Chen Dong is displayed as orcid.org/0000-0002-0084-9130. The page also shows associated links, search options, and a 50% discount offer.

図 7 Nature Immunology での ORCID 番号の表示

討されている。

## 6. おわりに

わが国の研究者の間での ORCID の認知度は必ずしも高いとはいえない。しかし、英文誌に投稿する研究者は、近いうちに ORCID への登録が必須となることが予想される。また海外の研究助成を狙う研究者も ORCID 登録が必要となる。まず、各大学・研究機関の研究支援部署が ORCID の重要性について認識し、研究者に宣伝することが望まれる。本年 (2014 年) 11 月に ORCID の Outreach Meeting が東京で開催されることになっている。多くの方が参加されることを期待する。なお、ORCID 理事である武田秀明氏らの記事<sup>15, 16)</sup>も出版されているので、参考にされたい。

## 参考文献

- 1) ORCID. (online), available from <http://orcid.org/>, (accessed 2014-01-22).
- 2) ISNI. (online), available from <http://www.isni.org/>, (accessed 2014-01-22).
- 3) Bryant, R. Overview of ORCID. 2013/12/6. Archive of Webinars & Materials, Association of SouthEastern Research Libraries. (online), available from [http://www.aserl.org/wp-content/uploads/2013/12/ORCID\\_Overview\\_ASERL.pdf](http://www.aserl.org/wp-content/uploads/2013/12/ORCID_Overview_ASERL.pdf) (<http://bit.ly/1bkhdh3>), (accessed 2014-01-22).
- 4) Fenner, M. ORCID: Unique Identifiers for Authors and Contributors. Information Standards Quarterly. 2011, 23(3), 11-13.
- 5) Fenner, M. et al. Collective action for open researcher & contributor ID (ORCID). Serials. 2011, 24(3), 277-279.
- 6) ORCID Members. (online), available from <http://orcid.org/about/community/members>, (accessed 2014-01-22).
- 7) ORCID Team. (online), available from <http://orcid.org/about/team>, (accessed 2014-01-22).
- 8) ORCID Ambassadors. (online), available from <https://orcid.org/content/orcid-ambassadors-1>, (accessed 2014-01-22).
- 9) ORCID Organization. (online), available from [https://twitter.com/ORCID\\_Org](https://twitter.com/ORCID_Org), (accessed 2014-01-22).
- 10) ORCID Integration: Editorial Manager<sup>®</sup> and Prodxion Manager<sup>®</sup>. (online), available from <http://www.editorialmanager.com/homepage/orcid.html>, (accessed 2014-01-22).
- 11) Harvard to Adopt Service to Uniquely Identify Academic Authors. 2013/5/14. (online), available from <http://library.harvard.edu/harvard-adopt-service-uniquely-identify-academic-authors>, (accessed 2014-01-22).
- 12) ORCID/ResearcherID. (online), available from [http://ip-science.thomsonreuters.jp/media/support/rid/rid\\_qrc\\_jp.pdf](http://ip-science.thomsonreuters.jp/media/support/rid/rid_qrc_jp.pdf), (accessed 2014-01-22).
- 13) My NCBI Curriculum Vitae Web Application: SciENcv. 2013/9/17. (online), available from <https://orcid.org/organizations/integrators/current>, (accessed 2014-01-22).
- 14) NYC ORCID Meet-up. 2014/1/16. (online), available from <http://www.slideshare.net/ORCIDSlides/new-york-area-orcid-meetup>, (accessed 2014-01-22).
- 15) 蔵川 圭ほか. 研究者識別子 ORCID の取り組み. 情報管理. 2012, 54(10), 622-631.
- 16) 武田秀明. ORCID 入門. 2011. 図書館総合展. (オンライン), 入手先 <http://www.kasm.nii.ac.jp/papers/takeda/11/takeda11lf.pdf>, (参照 2014-01-22).

(原稿受け: 2014.2.3)